

# 新年度のご挨拶

会長 コッシュ石井 美千代

令和6年度も、また一年、何とかすべての事業を無事に終えることができました。会員のみなさま及び関係者のみなさまには、日頃より多大なるご理解、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、人口減少が進み、どの業界においても人手不足は大きな課題となっています。介護福祉分野においては叫ばれて久しい課題ですが、厚生労働省からは、令和5年度の介護職員数が介護保険制度開始以来、初の減少に転じたと発表されました。介護福祉士の国家試験合格者数は毎年6万人もいるにも関わらず...です。

この現状は、介護福祉の根本を揺るがすほどの厳しい状況にあると考えています。

とかく量的な不足が課題とされ、国をあげて人材確保に莫大なお金とエネルギーが費やされています。確かに介護福祉職の人数はサービスの供給には欠かせません。しかし、病気や障害、認知症等により、何らかの支援がなければ生活していくことができない人々を支える私たち介護福祉職は、「数が揃えばそれで良い」とはならないのではないのでしょうか。「雇っても、雇っても辞める人が後を絶たない」状況を打破しなければ、事業所の経営者もそこで働く介護福祉職も心が折れ、ケアの質など問わなくなることが想像されます。

でも、私たち介護福祉士は、ケアの質が下がった時、誰よりも大変な思いをしているのは、サービスを利用する利用者だということを、いつ何時も忘れてはならないと思うのです。

利用者の安全が確保され、利用者が安心して毎日の生活を送ることができることを目指し、特別ではないけれど、ささやかなしあわせを感じながら生きていくことができるよう支えていくことは、私たち介護福祉士の貴重な専門性なのではないのでしょうか。

直接的にケアする介護福祉職の定着と育成は、安定したケアの提供、ひいては安定した事業運営に絶対不可欠ですから、今、介護福祉の

現場で踏ん張っている現任の介護福祉士及び介護福祉職を、大切にし、本気で育てていかなければならないと考えています。基礎的な知識や技術を繰り返し教え、双方にとって安全な介護が提供されること。課題をともに考え、導き、ケアが変われば利用者が変わり、好循環が生まれることを経験すること。それらを職場内で認め合い、次につなげることで自らの職能にやりがいとプライドを感じ、更に学び続ける意義を感じてもらうこと。これらを実践していくことは、大変重要です。

理想論だと言われることもありますが、長い道のりではあっても、正しく未来を変えていく唯一の方法だと、私は確信しています。

当会は、今後も機会があるたびに、「介護を必要とするすべての人とその家族及び介護福祉士の福祉の実現のため、介護福祉士に対する基礎的かつ徹底的な教育機会の提供」を提言していきます。

そして、令和7年度も、当会はこれまで以上に現任者の教育に力を入れてまいります。

日本介護福祉士会の定める生涯研修体系に基づき、基本研修やファーストステップ研修に注力します。介護技術を学ぶ場が少ないとの声から、繰り返し学べるよう毎月介護技術研修会を開催し、基礎から場面別の技術へと展開していきます。また介護現場に困難さを引き起こしている認知症については、実践にすぐに役立つ新しい視点からの認知症ケアをご紹介します。

また、当会の伝統である福祉サービス第三者評価事業や「介護職110番」（電話相談）、課題解決型の出前研修「サポート事業」を福祉サービスと介護福祉士の質の向上のために継続していきます。更には、ホームページの他、Facebook、Instagram、ライン等SNSを活用した広報活動にも力を入れていきます。

ともにほほえむ社会の実現のため、力を合わせて進んでまいりましょう。

本年度もよろしくお願いいたします。